

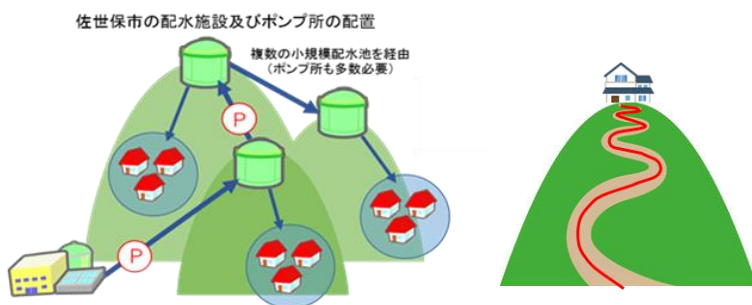
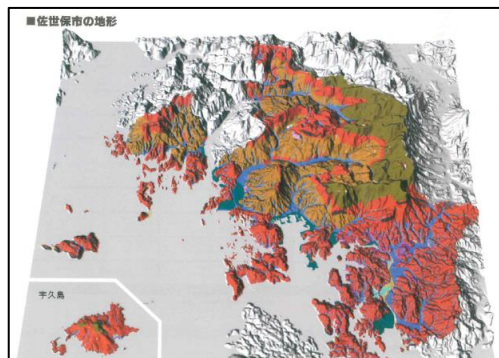
Q3 佐世保市の水道の特徴は？

A 斜面都市である佐世保市は、他都市と比べて多くの水道施設を抱えています。（多くの更新費用が必要となる）

斜面地が多いと、たくさんの施設が必要となります

佐世保市は、平野部がほとんどなく、複雑に入り組んだ斜面地で構成されており、高部地区にも多くの住居等が存在しています。

高部地区に給水するためには、水を圧送するためのポンプ施設や配水拠点となる配水池等の施設を設ける必要があります。



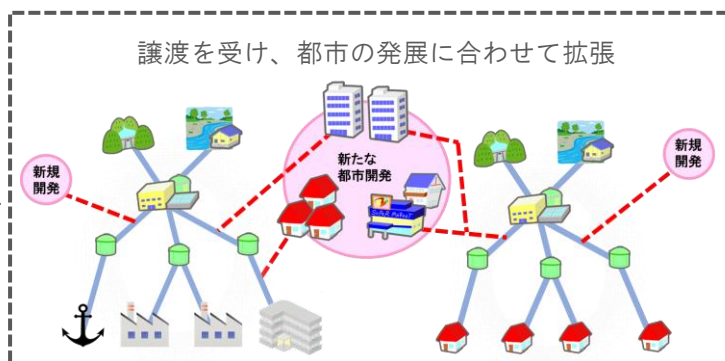
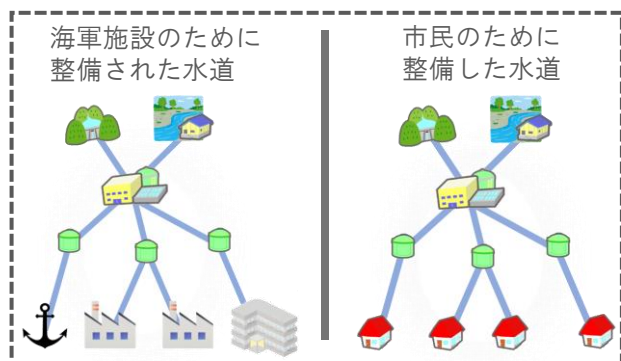
パイプラインも複雑な地形に合わせて整備する必要があります。斜面地では、曲がりくねった道路の形状に合わせて水道管を敷設することになります。

このようなことから、本市は他都市と比べて多数の施設を抱えています。

海軍と佐世保市がそれぞれに整備してきたことも原因のひとつ

佐世保市の水道は、明治期に「海軍の水道」と「佐世保市の水道」が別々に整備するところから始まり、戦後に譲渡を受け、戦後復興や高度成長期などの都市の発展にあわせて拡張整備してきました。

最初から計画的にされた水道と違い、もともと別々に整備された施設を利用して“継ぎ接ぎ”のような拡張整備となったことも、施設の数を増やす原因のひとつとなっています。



『平成の大合併』で、施設数がさらに増加

佐世保市では、平成17年から平成22年にかけて、1市6町の大合併が行われ「ひとつの佐世保市」となりました。

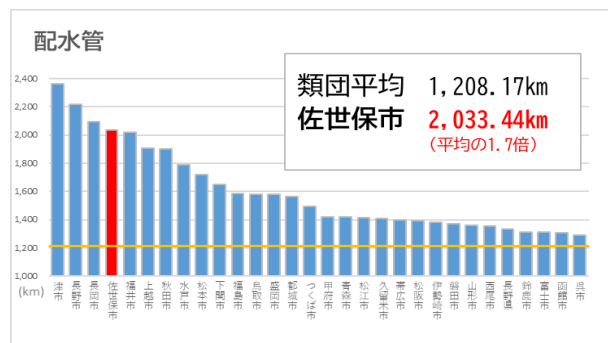
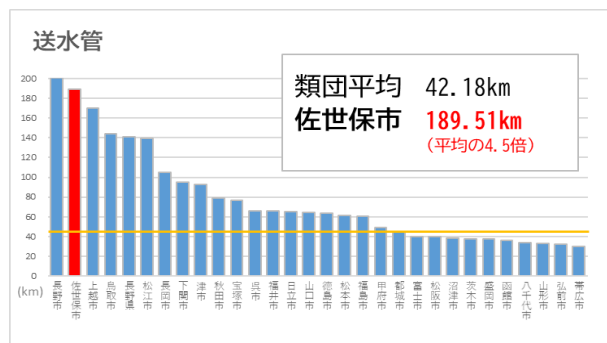
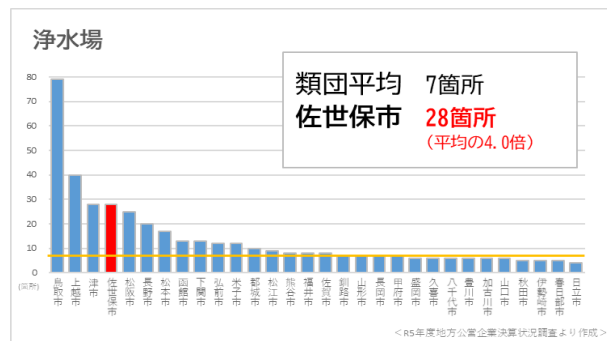
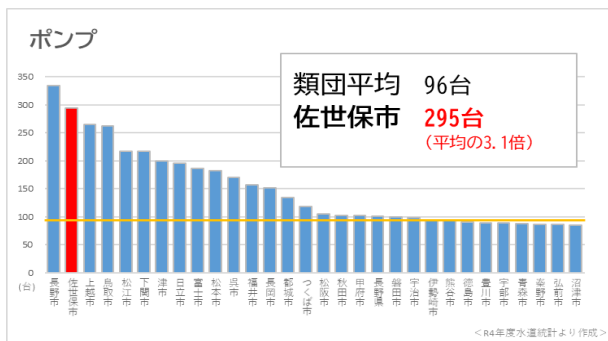
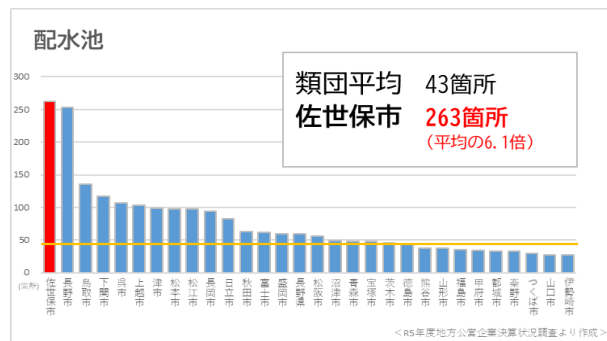
しかし水道は、前頁の海軍水道と同じように、合併以前に各旧町が別々に整備していますので、合併後の現在も、各地区ごとに分離・独立した状態です。

このことも、本市の施設数を増やす要因となっています。

右表は、旧佐世保市と旧合併町地区の保有施設数です。北部地区は特に斜面地が多いため、人口規模に対して、かなりの施設数を抱えています。

	浄水場	配水池	ポンプ台数
佐世保地区	9	157	197
旧合併町地区	19	106	98

その結果、佐世保市の施設の数、全国最多水準となっています



施設数が多いと、今後の更新費用が多く必要となりますので、施設の数減らししていくことが本市の経営課題となっています。